

あけましておめでとうございます。

新しい年になりましたね。3年生はいよいよ受験シーズン突入です。努力が結果に繋がることを信じて、最後まで受験勉強頑張ってください。1, 2年生も、新しい学年への進級が間近に迫ってきました。自信を持って次の学年に進級できるよう、現学年の学習の振り返りをしましょう。

貴方の「昨年の一冊」は何ですか？

皆さんは昨年読んだ本で、どんな本が印象に残っていますか。私が昨年一番印象に残った本は東野圭吾さんの「容疑者Xの献身」という推理小説です。有名な作品なので読んだ方も多いのではないのでしょうか。

この本の面白い所は、主人公である大学教授の湯川学視点ではなく、事件の首謀者である石神の視点を中心に物語が進行する点です。「犯人視点で描かれているなら、捜査を振り切るためのトリックや犯人のねらいが全部分かってしまって面白くないじゃないか。」と書いてしまいますよね。私も初読のときはそう書いていました。

しかし、話題になるだけはあります…。良い意味でその予想は裏切られてしまいました。読みながら、ふと違和感を覚える瞬間はあるもののあまり気にせずに読み流していきます。すると最後の最後、考えもしなかった衝撃の展開が待っていました。この小説は350ページ程の内容なのですが、残り30ページになるまですっかり騙されていた私は、読み終わった直後2周目の読書をしていました。作者の東野圭吾さんの作戦に、私はまんまと嵌ってしまっていたようです。最近少し読書から遠ざかっていたのですが、本を読むことの楽しさを改めてこの本に教えてもらった気がします。興味がある方は是非読んでみてくださいね。

2学期、皆さんに取ったアンケートの中に、「図書室の利用が減った」「読書をする時間が減った」という残念な結果がありました。本は私達に知識を与えてくれるだけでなく、楽しみや喜びなどの感情や、今まで気付かなかった新しい視点を与えてくれます。詩や短歌、自己啓発系の本は、私達に勇気や自信を与えてくれます。本好きな人もそうでない人も是非、3学期は図書室に足を運んで、読書に親しみましょう。

図書室使用についてのお願い

皆さんに図書室をたくさん利用してほしいと思う一方で、2学期は図書室の使い方について気になることもありました。いくつか例を挙げるので、自分に当てはまると思った人は、皆が有意義に図書室を利用できるようにするため、3学期から使い方を見直してください。

1つ目は図書室をおしゃべりの場所と勘違いしている人が多いということです。図書室は静かに本を読みたい人のための場所であって、楽しくおしゃべりをするための場所ではありません。おしゃべりを楽しんでいる人は気がつかないかもしれませんが、実際にそのことが原因で本を読む気になれないという人がいます。友達と話したいなら他の場所で話してください。図書室は静かに使う場所です。

2つ目は、何でもそのままにする人がいるということです。本を読んだ後、元の場所に戻っていますか。使った後の椅子はきちんと揃えて入れていますか。出来ていないことが多いです。3年生は放課後学習で使った後に消しゴムのかすを片付けていますか。椅子を揃えていますか。使いっぱなしのことが何度もありました。皆が意識することで、はじめて使いやすいきれいな図書室になります。改善が見られないようであれば、図書室の利用を制限することも考えています。冬休み中に模様替えもしました。現状維持。気持ちよく使えるように協力してください。

3つ目は返却率が大変悪いということです。本を期限内に返さないと、いつまでもその本は他の人が読めない状態のままです。3学期からは、給食準備時間も貸出返却を行います。月曜日が2年生、水曜日が1年生、金曜日が3年生です。昼休みに本を返す暇がない人は、その時間に返却をするようにしてください。人気のある本は皆読みたいのです。周りの人のためにも早めに返すようにしてください。

ページをめくる音しか聞こえないような静けさの図書室の中で、皆がわくわくしながら、ほろりと涙しながら、青春に胸をときめかせながら、本に親しんでくれることを願っています。皆の協力で、素敵な図書室にしましょう。よろしくお祈りします。